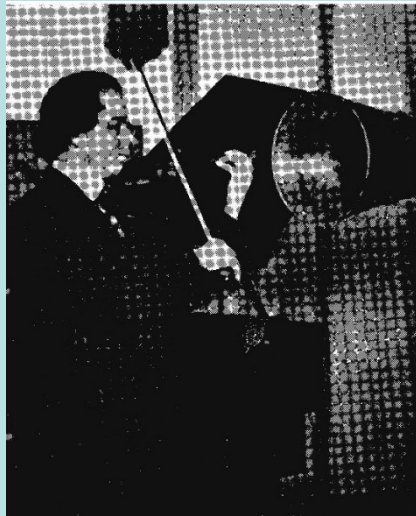


## アコースティック録音から電気録音へ、そして電気再生へ



バイオリンのアコースティック演奏



ピアノのアコースティック演奏

初期のアコースティック録音では、演奏する(歌う)側に特殊な技量が必要で、多くの音楽家に「レコードは缶詰」と揶揄され嫌われていた。

しかし、1925年に電気録音対応のオーソフォニック・サウンドボックスを装着したVictorola蓄音機が発売された。

発売とともに公開実験を行い、ジョン・フィリップ・スーザなどの著名な音楽家の支持を得ることができた。

1926年、蓄音機の最高傑作と呼ばれるCredenzaが誕生する。これにより、蓄音機の黄金時代が訪れたように思えるが、多くの人の興味はラジオとトーキに移っていく。

時代の流れに合わせてるように、1930年前後にはラジオ＋電気再生の蓄音機(電蓄)が製造・販売されるが、蓄音機市場は衰退の一途をたどる。